

冬休み学習支援 書き初め講座

通級保護者となかまたちの会 ぱすてる

団体概要

設立 2011年4月（2014年4月より会の名称を「ぱすてる」と命名）

活動内容

枠にはまらない我が子の理解に苦しみ、学校から紹介された通級指導教室を利用したことで同じように悩み孤独を感じる親子がいることを知り、通級卒級を機にOBおしゃべり会という形の保護者会を立ち上げる。茶話会、親子勉強会、学習支援、講演会を開催。

理念

繊細な悩みを表出できる安心安全な場づくり、五感を活用しながら体験を通し社会に必要なスキルを育てる、その子らしい思いを細くこと。

ブログ <http://tukyunakamapastel.i-ra.jp/>

LINE@ <https://lin.ee/qg3y5eC>

メールアドレス pastel.colorfulrainbow@gmail.com

目的

学校教育法施行規則に基づき、通常の学級に在籍する軽度の障がいをもつ児童が、個々の障がいの状態に合わせて受けられる個別指導が通級指導教室である。

通級指導教室を利用している児童は、通級指導教室が利用できない長期休暇の宿題をやり遂げる事が困難な状況におかれる。

実際自身の子が通級指導教室に在籍し、長期休暇の宿題をやり遂げることが困難であった辛い経験から、学習支援の場があったらよいと切望していた。

書道の授業はあっても、書き初めの説明が不十分な学校もある。書字に困難さを抱える以外に、書き方や筆の使い方がわからない児童も多く存在する。また、家庭で広い場所を確保しにくく、不器用さを抱える児童が、広いスペースで自分のペースで行うことができ、コツを講師から教授してもらう環境があれば書き上げることができるのではないかと考えた。

2015年より通級指導教室在籍中、過去在籍の児童に対し、沼津2小ことばの教室で加入する静岡県ことばと心を育む会 OB事業・学習支援として3年前から開催できることとなった。

2019年度より静岡県ことばと心を育む会から独立し資金がないこと、この企画により通級指導教室を利用していない児童でも学習が困難な児童の支援につながり広く知っていただく機会となるとよいと考えた。

実施概要

通級指導教室に通っていない児童生徒のなかにも、同様の悩みやニガテがあることを鑑み、対象者年齢を書き初めの宿題がある小学生から高校生までとし、対象者を書き初めがニガテな児童生徒とした。

ボランティア保険に加入もするが、送迎、準備進行、事業中の不慮の事故等の対応を考え、基本を親子で参加できる方とした。参加できる児童・生徒を増やすために、午前の部・午後の部と時間を区切る形とした。

サンエールぬまづ4階多目的ホールを借り、会場の好きなところに自分のスペースを確保し各自準備する。

講師が事前に参加者のお名前見本を作成し、受付時に配布。学校からの課題とお名前見本を併せて見ながら、終了時間までに自分のペースで書き初めを書き上げる。会場には講師1名が、書き方指導を一人ずつ順番に実施。

スタッフ5名で受付・参加児童の書き初め物品準備・進行等のフォローを行う。

参加者の交流、休憩も兼ねて飲み物やお菓子を用意し、リフレッシュしながら書き上げられるよう配慮した。

手法・方法・スケジュール

開催日：12月26日（木）
 午前の部：9時半から12時 午後の部：13時半から16時
 定員：各20名
 会場：サンウエルぬまづ4階多目的ホール
 参加費：お子様1名500円
 講師：須藤好美先生
 当日スタッフ：5名（うち2名通級OB高校・大学生）
 案内リーフを300枚印刷し、通級指導教室・近隣の放課後等
 デイサービスへ配布、広報ぬまづに参加者募集の掲載。
 11/8からメールと電話で申し込み開始
 ぱすてるブログでも講座の宣伝

参加者様へ必要事項・お名前お手本の漢字指定の確認
 必要な事務用品、当日参加者への飲み物・お菓子の購入
 ボランティア保険加入・会場費用の振り込み
 当日参加者様に記入していただくアンケート作成
 参加者リスト作成
 講師へ各児童のお名前お手本の作成依頼と出来上がったお手
 本の受け取り
 午前・午後で色わけした養生テープに名前を記入（参加児童
 の胸等に貼る）、アンケート、当日の流れ、ぱすてる紹介チ
 ラシ等クリアファイルにセットする
 キャンセル対応、参加者様へのリマインドメール

書き初め講座

講師：須藤好美先生

日時：令和元年 12月 26日（木）
 午前の部：9時30分～12時00分
 午後の部：13時30分～16時00分

会場：サンウエルぬまづ4階多目的ホール

料金：お子様1名につき500円
親子の保険料、お名前お手本、非習字のお菓子代等
 ※基本、開催：月行付のフォローのため保護者同伴（保護者は無料）

対象：小学生～高校生まで

定員：午前の部・午後の部 各20名（先着順）

講師：須藤好美先生（千彩書道教室）

当日の流れ（午後部 13時～）

13:15～ 受付
 子供科書道教室 須藤好美先生より挨拶
 受付するまでの方からホールで自分のスペースを準備して書き初めが始まるよ
 り書き初め講座

13:20～ 講座 開始
 書き初めのスタート

書き初め講座の会場
 書き初め講座の様子
 書き初め講座の様子

当日の持ち物
 ・習字セット（学校で使用するすり紙が入っているバッグ）
 ・筆（書き初め用の太い筆と名前を書くための細い筆）
 ・下書き（書き初め用の長いものがあるとういです）
 ・学校からもらった課題の書き初め平均用紙
 ・新聞紙（新聞2日分程度）
 ・書き初め用紙（ご自分の習字に合わせた大きさのもの）
 ・習字帳（ある方は習字帳4冊程度は持参してください）
 ・筆記用具

申し込み
 問い合わせ
 11/8 10時から
 申込開始！

申し込み先
emtel.yul@rainbowmail.jp（担当：コリナ）宛に
 件名を書き初め講座申し込みと、参加児童名（フリガナも印刷）、参加保護者名、保護者連絡番号、ご希望の部、お名前お手本の指定（西・三年・男子・太字）など書き、ひらがなの自分の指定と行幸等の指定がある場合も記入ください。わからない場合は申し込み後確認が取れ次第でも大丈夫です。申し込みの上返信ください。記入事項がセットされているQRコードの印刷も発行です。不明な点等お気軽にお問い合わせください。2～3日程度返信が遅い場合は平儀の場合も考え、お手数ですが再度お問い合わせくださいませ。

主催：通級指導者となかまたちの会 ぱすてる/ぬまづよりくりファンダレイション/近隣の放課後等デイサービス

成果指標と結果・考察

アンケート結果

宿題をやりきれた、宿題が終わって嬉しかった、先生に書き方を教えてもらっていつもよりも字がうまく書けた、自由な雰囲気のできたという声を頂いた。

一緒に書き上げることでイライラすることへの抑止力となったり、安定した気持ちで宿題に取り組むことができる児童が多かった。時間が長く集中が途切れて疲れてしまった、会場を走り回ってしまう児童がおり集中できなかった、講師が1名だったため指導が少ないと感じる方もおられた。

成果

参加者満足度4以上の記入の合計80%以上が目標であったが、85.7%と目標達成することができた。

考察

通級指導教室に通っていない、または障がい等と診断されていないが、発達に心配があるお子様・放課後デイサービス等を利用しているお子様にも参加して頂きたいと思ったが、広報ぬまづへの募集掲載の際、文字制限があり説明が不十分となってしまった。そのため、ただの書き初めの教室のような印象を持たれた保護者様が多くみられた。

通級指導教室に通っている方もご参加されることを説明すると怪訝な対応をされる方もおられた。また、メールと電話での受付としたことから、当日は電話が鳴りやまず対応に追われた。

当日の流れ等の詳細も含めた参加募集チラシを印刷したものの、広報ぬまづからの申し込みでほぼ定員となった。しかし、狙い通り、通常クラスに属しているが、発達に心配がある、ご兄弟等に障がいをお持ちである、耳の聞こえなど別の障がいがある等様々な方に広く興味を持っていただくことができた。

定型発達のお子様も、快く参加してくださる方も多く、インクルーシブ教育としてよい経験ができる場となったと考える。

個人情報や郵便物の確実な配布等の観点から住所をお尋ねすることを控えた。しかし、講座に関して、広報ぬまづからのお問合せに各々詳細を連絡をするのが簡単ではなく、親子で参加していただくこともうまく伝わらず参加を見合わせる方もおられた。

過去通級指導教室に通っていた子ども達にスタッフとしての経験を培えることができたこと、お子さんが大きくなった、未来を想像できる交流も大変有意義であったと考える。

今後の課題・活動予定

今後の課題

申し込みのしかたと、講座の情報提供のしかたについて、申し込みをスムーズかつ細やかな対応をすること。

定員のある講座のため、申し込みの対応を1人で行ったこと。スタッフで役割分担ができるようなシステムを考える必要がある。

資金がないため、1人参加費500円では来年度以降事業展開が難しい。申し込んでいた助成金も不採択であったため、現在資金的な目途がたたず開催が難しい。

また、冬場の開催となるため、コロナウイルス感染症の県内情勢により今年度開催はできない可能性が高い。夏休みの工作、暑中お見舞いのハガキを書く、などの学習支援や、個を意識し少人数での開催であるなら今後実施可能であるかもしれない。

活動予定

今年度は、長期休暇の日数短縮や宿題の量などに変化が生じていること、コロナウイルス感染症での情勢を踏まえ、学校の宿題での学習支援ではなく、数回にわたり講座を実施予定。

第1回目は自分の夢をかなえるために、身の回りのお金（見えないお金）について考える『自分の未来を設計してみよう！』という講座（親子向け、高校生から大人向けの2部制）を10月に予定。

自分の未来の可能性や夢を考えながら、それにはどのくらいのお金が必要か？五感を使って考えていく。

その後数回、講義形式で社会科・経済学的な視点（税金について、社会人になって必要になるお金など）オンラインもとりいれながら、自らの未来を考える時間をつくる。

今後も五感を育み、自ら考える力を養う場、安全安心で自分の思いを自由に表出できる場を提供できるよう活動していきたい。